

平和

NHK特集

夏服の少女たち

～ヒロシマ・昭和20年8月6日～

放送日：1988年8月7日 放送時間：50分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校

対象教科 学級活動 総合

この番組の良さ



● 戦時下の日常をアニメで表現

広島県立第一高等女学校に入学し、ようやく慣れてきた13歳の生徒たちが、学徒動員で建物解体作業中に被爆。本番組は、戦時下の学生としての日々を精いっぱい生きる姿を、克明にアニメで再現しています。夏が近づくにあたり、夏服を自分たちで製作するささいな取り組みに喜びを感じ、お弁当のおかずを話題に、クラスメートと盛り上がる姿に、現在の学生の様子と通じるものを感じます。戦時下での、空腹で防空壕に避難する日常や学徒動員の作業のきつさ、授業がまともに受けられず畑作業に明け暮れる日々などの様子から、平和であることの尊さ、ありがたさを深く感じることができる番組です。

● 焼け焦げた夏服が伝えること

番組では、残された遺族の深い悲しみを、インタビュー映像から感じ取ることができます。被爆後、無残に焼け焦げて原型をとどめていない夏服が遺族のもとに戻ってきます。時折洗ったりアイロンかけたりと、大切に丁寧に保管していましたが、年齢のこともあり今後のことを考え、遺品を原爆資料館へ寄贈することに決めます。預けた後のご両親のほっとする姿と、インタビューに「世の中が変わっても親子の情は変わらない」と答える奥津トシさんの言葉がとても印象に残ります。

番組活用のポイント

● 戦争の悲劇を風化させない学習

本番組は、1988年8月に放送され、現在(2023年)では35年が経過しています。また、広島に原子爆弾が投下されてからは78年が経過しています。毎年、平和記念式典の開催や学校において平和学習等を行うなど、戦争の悲惨さを風化させず語り継ぎ、平和への思いを引き継ぎ、実現するための取り組みが続けられています。

当時の広島県立第一高等女学校の3人の生徒を中心に描いた再現アニメは、今も風化せずに戦争の悲惨さ、残酷さ、平和の尊さを伝えてくれます。

広島県への修学旅行等の事前学習として、本番組を視聴することをお勧めします。実際に平和記念資料館を訪れた際に、番組での生徒の夏服や熱で変形した弁当箱などを目にする中で、戦争による悲劇の歴史を改めて実感することでしょう。また、その他の展示物の見学や、館員や語り部の方への聞き取りなど、体験的な学習を進めることで、平和であることへの感謝の気持ちを育み、恒久平和を実現しようとする意識や態度の醸成につながります。

● 「平和」ジャンルの番組を合わせて視聴する

昭和20年8月6日、学徒動員で建物解体作業にあっていた広島県立第一高等女学校の生徒220名が原子爆弾の犠牲となります。爆心地から800m離れた場所でしたが、爆心地周辺の地表面は3000℃~4000℃に達し、爆心地から2km以内の木造建築物はすべて倒壊しました。直爆と原爆症の犠牲者を合わせると1945年末(昭和20年)までに、約14万人(推定)が死亡しています。

平和学習を進めるにあたり、私たちが平和のためにできることを考えることは重要です。NHKティーチャーズ・ライブラリーの、「平和」ジャンルの番組を合わせて視聴し、様々な視点から平和の尊さ、戦争の悲惨さについて改めて考え、自分たちのできることを考え、実践することで、平和で持続可能な未来を創造する態度を育みます。





執筆者
大分県立大分商業高等学校
教頭 **森 浩三**

学習展開例

平和であることの尊さ・ ありがたさを改めて考える

対象校種 中学校 高校 対象教科 平和学習

[授業時間 90分] 45分×2 まるごと視聴

生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<div style="text-align: center;"> <p>数万人以上 数十万人以上 わからない</p> <p>昭和20年末までに直爆者と原爆症者をあわせて 約14万人(推定)が亡くなる</p> <p>当時、同じ年代の人たちは、どんな思いで生活していたのだろう？</p> <p>戦時中の学校生活の中で、夢や希望を語り楽しく 会話する場面などあったのだろうか？</p> <p>番組まるごと視聴</p>  <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <ul style="list-style-type: none"> ・早く戦争が終わってほしい ・学徒動員の作業がきつい ・おなか一杯食べたい ・勉強に集中したい ・平和に暮らしたい ・白いご飯が食べたい <ul style="list-style-type: none"> ・夏服の製作がうれしそう ・お弁当の卵焼きがうれしそう ・みんなで合唱するのが楽しそう ・作業はきついけどみんなと一緒に だから楽しそう ・教室で授業を受けられるのが 楽しそう </div> <p>当時の学校生活の様子や様々な思いをグループで伝え合う</p> <p>今、当たり前に行っていることは、 当時は、当たり前ではなく特別なことだった</p> <p>今、当たり前に行っていることは、すべて 平和でないといけないことだと改めて感じた</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <p>感謝</p> <p>喜び</p> <p>希望</p> <p>しあわせ</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・当時、過酷な生活を強いられる中でも、希望を見出し、平和で豊かな生活を期待する毎日であった。</p> <p>・学校での何気ない友人との会話や、ちょっとしたイベントに喜びを感じ明日に希望を抱いていた。</p> </div> <p>世界情勢に目を向け、多様な情報から世界平和について考えてみよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和20年8月6日に広島市に投下された原爆で、直爆と原爆症で亡くなった方が昭和20年末で、どのくらいいるか尋ねる。 ※参考例として、昭和19年の広島市の人口が約34万人であることを伝える。 ・自分たちと同じ年代の生徒たちが、戦時下でどのような生活をしていたかに着目し番組を視聴する。凄惨な映像があることを事前に伝え配慮する。 ・番組視聴後、同年代の学生たちがどのような思いで当時を過ごしていたか、視聴より感じたことなどを伝え合うことで、様々な思いを共有する。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>長崎原爆の子の兄 坂川浩史さん</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・今、当たり前に行っていることは、平和であることが前提であり、当時では特別なことであったことを確認する。 ・様々な紛争などにより、過酷な生活を強いられている人々や、子どもたちの教育の機会を奪っている現状を踏まえ、世界平和について考える場面を設定する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】 平和であることの尊さをしっかりと踏まえ、恒久平和を実現するために主体的に考え学習活動に取り組むことができた。</p>